

令和7年 稲作情報 vol.1

※この資料は、令和7年3月24日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しております。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部 Tel 0241-62-5262

南郷普及所 Tel 0241-72-2243

J A会津よつば田島営農経済センター Tel 0241-63-1172

南郷営農経済センター Tel 0241-72-2554

下郷資材センター Tel 0241-69-1088

只見資材センター Tel 0241-84-2214

◎ 令和7年産米の育苗作業が始まります。
健康な苗作りに取り組みましょう。

<作業スケジュール(参考)>

	3月		4月		
	中	下	上	中	下
ほ場準備			耕起		
種子の準備		塩水選			
		種子消毒			
浸種			浸種		
催芽				催芽	
播種					播種
苗床				苗床準備	

※ 作柄判定ほ（田島・ひとめぼれ）の播種期平年値（4月20日）から例示。

<ほ場準備>

1 耕起(春耕) 秋耕していない場合

- ・ 稲わら等未熟な有機物はすき込んでから分解するまで時間がかかります。
⇒分解が不十分なまま入水すると、移植後にガスがわきやすくなります。
可能な限り早い時期に耕起し、すき込みを行いましょう。

<育苗>

○ 作業の前に **病害リスクの少ない清潔な環境づくり**

- ・作業場や育苗施設周辺にある稲わらや籾殻、ほこりには病原菌が付着している可能性があるため、作業前にしっかりと清掃しましょう。
- ・種子の保管場所は風通しが良い日陰とし、直接地面に置かないようにしましょう。

1 種子の準備

(1) 塩水選 (消毒済種子でも必ず実施しましょう！)

- ・発芽力の高い種子を選ぶために必要です。塩水を作る時は、比重計を使い、比重をうるち米の場合 1.13 (食塩の場合 2.1 kg/10ℓ、硫酸の場合 2.7 kg/10ℓ)、もち米の場合 1.10 (食塩の場合 1.6 kg/10ℓ、硫酸の場合 2.0 kg/10ℓ) とします。

※県内採種ほど生産された消毒済み種子は、塩水選を実施する必要はありません。

(2) 種子消毒 (未消毒種子を使用する場合)

(対象病害名：いもち病、苗立枯細菌病、ばか苗病、もみ枯細菌病)

消毒法	テクリードCフロアブル (200倍液、24時間浸漬) ⇒浸漬後風乾せず浸種へ移行 ※種子と処理液の容量比は1:1以上としてください。
	温湯種子消毒法 ① 60℃の湯に <u>正確に</u> 10分間浸漬 ・温度が高いと発芽不良、低いと防除効果が劣る場合があるため、専用の温湯消毒機を使用し、湯温を維持する。 ・浸漬開始直後に袋を5回程度上下させ、種子袋内の温度を均一にする。 ② 処理終了後、速やかに流水等で種子を冷やし、浸種に移行する。

2 浸種

酸素の欠乏に注意しながら十分吸水させましょう。

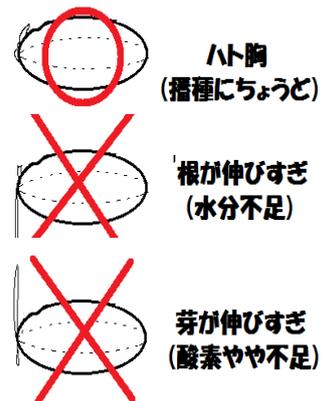
- ・水量は種子量の2倍以上、浸漬水温は10～15℃とし、時間をかけて吸水させましょう。
- ・浸漬時間は積算温度で100～120℃(浸漬水温×日数)を目安に行いましょう(休眠性が深いひとめぼれとコシヒカリは長めに)。
- ・酸素の欠乏を防止するため、浸種後3日目から定期的に水を交換しましょう。

種子は袋にぎっしり詰めすぎない
種子袋は平らに、水はたっぷり余裕をもって



3 催芽 播種前にハト胸の状態まで均一に芽出し！

- ・育苗器や催芽器の温度設定は28℃にします。
(30℃以上はもみ枯細菌病が発生しやすくなります)
- ・育苗器内では種子の入ったもみ袋は薄く均一に広げます。
- ・育苗器内の温度は温度計で確認しましょう。



4 播種 苗の種類と育苗日数は、播種量で決まります。

- ・苗の種類に見合った播種量を厳守し、均一に播種することが良い苗づくりのポイントです。
- ・播種日は育苗日数を考慮し、田植え日から逆算して決めましょう。

5 播種量と苗の生育目安について(参考)

苗の種類	播種量 (乾粃 g/ 箱)	育苗日数 (日)	草丈 (cm)	葉齢 (葉)	箱数 (箱/10a)
高密度播種苗	250~300	15~20	10~15	2.0~2.3	7~14
稚苗	150~180	20~25	10~13	2.2~2.5	18~20
中苗	100~120	30~35	13~15	3.0~3.9	26~30

- ・かん水に合わせて**苗立枯病の薬剤防除**を行いましょう。

〈使用薬剤例〉

薬剤名	適用病害	希釈倍数 ・使用量	使用方法	使用時期	本剤の 使用回数	散布液量
ナエファイン フロアブル	苗立枯病 (ピシウム菌、 リゾープス 菌、フザリウ ム菌)	2000倍	土壌 灌注	は種時	2回以内	育苗箱(30× 60×3cm、使 用土壌約5L) 1箱あたり 0.5~1L
ダコニール 1000	苗立枯病 (リゾープス 菌)	500~ 1000倍	土壌 灌注	は種時か ら緑化期 (但し、 は種14日 前まで)	2回以内	育苗箱(30× 60×3cm、使 用土壌約5L) 1箱あたり 500ml

6 出芽の温度管理

(1) 育苗器を利用する場合

- ・温度は28℃に設定。2～3昼夜が目安

(2) ハウス内に平置きする場合

- ・ハウス内の温度は28℃が目安です。低温時は保温に努めます。
- ・例年苗ヤケが発生しています。苗ヤケ防止のため、28℃以下になるよう適宜換気を行い、被覆日数は5～7日間を目安としましょう。
- ・出芽率80～90%、芽の長さ5～10mmを目安として緑化に移りましょう。

※ 緑化の温度管理

- ・出芽後、緑化の際は日中20～25℃、夜間12～15℃で管理し、ハウス内の温度が28℃を超えないよう管理しましょう。

※ 高密度播種苗について

- ・高密度播種苗は育苗期間が短く育苗箱数の削減が期待できます。しかし、葉齢2.3を越えると、苗の生育が停滞し、移植後に活着しにくくなるので注意が必要です。

7 令和7年2月の大雪による被害について

- ・雪解けが進んだことにより、令和7年2月の大雪による被害が確認された場合、速やかにお住まいの市町村へご連絡願います。
- ・また早急に被害ハウス等の撤去が必要な場合であっても、被害状況の写真を記録として残すとともに、町村の指示に従って作業等を実施してください。
- ・大雪による被害の現状確認ができていない場合や証拠書類がそろわない場合、災害対策事業による補助が受けられなくなることもございますので、ご理解とご協力をお願いします。

◎ 春の農作業安全運動実施中（期間 3/1～5/31）

春はトラクターを利用する機会が多くなり、農作業事故が発生しやすくなります。転落・転倒に注意して作業を進めましょう。

次回発行は4月上旬(育苗管理について)を予定